

# 長期ビジョンと中期経営計画進捗

## 長期ビジョン Stage2030 総合設備工事から「空間価値創造」企業へ

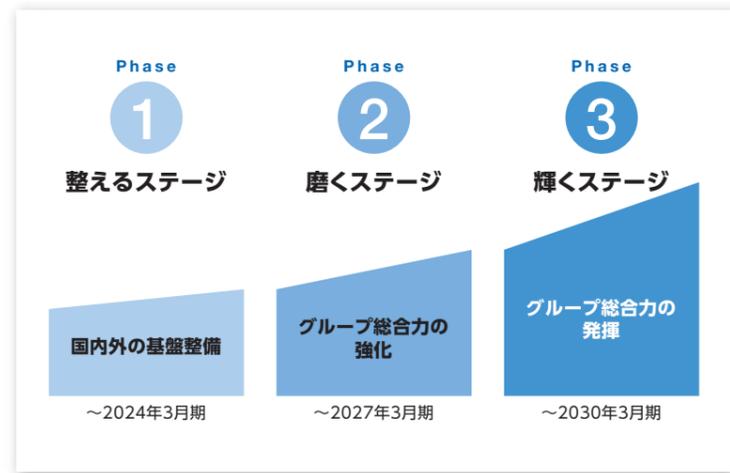
2021年2月に2030年に向けた9年間の長期ビジョン「Stage2030」を発表しました。  
2021年4月からスタートした3か年の中期経営計画「整えるステージ」に始まり、3つのステージで実現を目指します。

### 「空間価値創造」企業とは

私たちは創業以来、総合設備工事業者として、常に時代が求める「空間」に必要な設備を提供してきました。

「空間価値創造」企業とは、社会やお客さまが本質的、潜在的に求めている「価値」のある「空間」を「創造」し、満足を提供していく企業です。

私たちは持続可能な社会の実現に貢献し、未来が求める「空間」の「価値」を「創造」し続けるため、総合設備工事の枠を超えて事業領域を広げ、「空間価値創造」企業として、新たな「Stage」に向かいます。



### 基本方針

私たちは事業活動を通じて、豊かな社会の実現とさまざまな社会的課題の解決に、貢献していきます。

#### 快適・最適な空間の提供

日々の生活やビジネスを営み続けるためには、快適・最適な環境の空間が必要です。  
私たちは、光と空気と水をエンジニアリングで磨き、空間の新たな価値を提供し続ける企業グループを目指します。

#### 豊かで持続可能な社会への貢献

人々が安全、安心、健康に暮らし続けるために、持続可能な社会の実現が求められています。  
私たちは、新しい技術と高い専門性で、豊かでサステナブルな社会の実現に貢献し続ける企業グループを目指します。

#### 信頼される人と組織の深化

組織が社会に新しい価値を提供し続けるためには、何よりも信頼される人づくりが重要です。  
私たちは、人づくりを通して組織の価値を高め、すべてのステークホルダーに信頼され続ける企業グループを目指します。

## 中期経営計画 Stage2030 Phase1《整えるステージ》

(FY2021~2023)

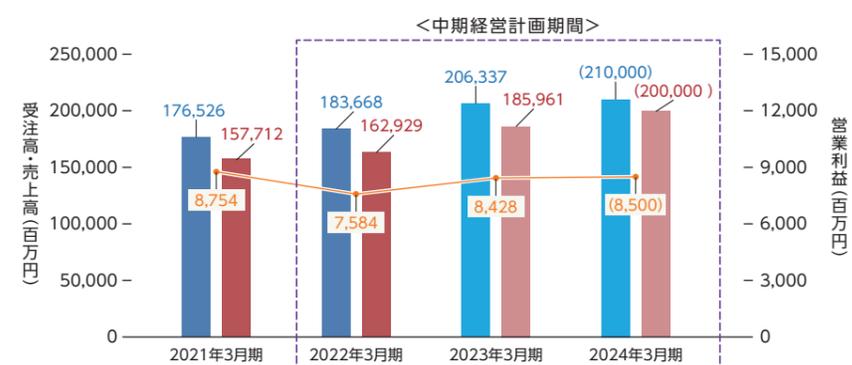
長期ビジョンで示す3つのフェーズの最初にあたる2022年3月期から2024年3月期までの3年間を、中期経営計画「整えるステージ」としてしています。長期ビジョンの3つの基本方針を踏まえ、「基幹事業の拡大」「海外事業の強化」「技術力の強化」「新規事業の開拓」「事業基盤の強化」の5つを事業戦略と位置付け、具体的な施策に落とし込んで国内外の基盤整備を目指しています。

「整えるステージ」の数値目標は、最終期の2024年3月期において連結売上高2,000億円・連結営業利益100億円とし、3年累計で200億円の投資計画を設定しています。

### 《整えるステージ》数値目標

項目	2022年3月期実績	2023年3月期実績	整えるステージ2024年3月期目標	2024年3月期(5月11日発表)見通し
連結売上高	1,629億円	1,859億円	2,000億円 連結子会社比率UP	2,000億円
連結営業利益	75億円	84億円	100億円	85億円
ROE	7.6%	8.3%	8%以上	7.7%
配当性向	33.3%	32.3%	30%以上	35%以上
投資計画※3期累計	DX推進(施工現場・働き方改革) 企業グループ強化 新規事業・研究開発など		200億円	

### 中期経営計画業績見通し



### 2023年3月期業績について

- 【受注高】  
企業の設備投資意欲の回復を背景に、再開案件や産業施設案件を中心に好調に推移
- 【売上高】  
産業施設、空港および医療関連施設などの大型工事が順調に進捗
- 【営業利益】  
売上高の増加と円安にともなう為替影響が寄与し増益

FY2021-2023 中期経営計画 Stage2030 / Phase1 整えるステージ 「整えるステージ」における施策の進捗状況は次のとおりです。

基本方針	事業戦略	《整えるステージ》の戦略	施策の実施状況
快適・最適な空間の提供	基幹事業の拡大	産業施設工事の拡大	電子デバイス系工場やデータセンターを中心として受注拡大が顕著であり、2022年4月に発注した「エンジニアリング事業部」が施工品質の確保に大きく貢献している。
		ストックビジネスの強化	子会社と連携し、積極的な保守メンテナンス受注による顧客囲い込みを推進している。
	海外事業の強化	海外展開の統括基盤整備	海外の各プロジェクトの営業・技術提案・品質管理を国内の本部が支援している。
		新規拠点の開拓	2020年度に新規進出したベトナムにおいて、設備工事の受注・竣工に至った。
豊かで持続可能な社会への貢献	技術力の強化	現場力の強化	全方位カメラの映像から3次元の空間データを作成するツール「Construction Visualizer 4D™」、遠隔から図面作成等の支援を行う「現場支援リモートチーム」等のDX事例の社内活用を進めることで生産性向上に繋がっている。
		ZEB&IoT事業の拡大	自社ビルでのZEB化である「エネフィス」シリーズをはじめ、ZEBによる低炭素社会実現に向けた取り組みを進めている。2022年5月には北陸支店の建替えが完了した。
	新規事業の開拓	再生医療の実用化への貢献	設備技術を活かした細胞加工施設に向けた機器・システム販売事業と、細胞製造受託事業の両面から再生医療への貢献を目指す。当社の拠点である「セラボ殿町」に受託製造用のCPF (Cell Processing Facility) を構築した。
		環境負荷低減ビジネスの推進	通常は廃棄されていた使用済エアフィルタを再生するサービスを展開し、廃棄物およびCO <sub>2</sub> 排出量の削減に貢献することを目指す。2022年度から、有力な半導体メーカーの集積する台湾での事業を開始した。
信頼される人と組織の深化	事業基盤の強化	DXの推進	業務部門や事務部門に関しても、RPAなどのDXを推進することで会社全体としての効率化を図っている。
		働く環境の整備	長時間労働の是正に向けた全社プロジェクト「SMILE 2024 Project」を始動し、全社として継続的に生産性を高めるノウハウを構築し、働く環境を整備することによる多様性の実現を目指している。
		企業グループの体制強化	シンガポールの設備工事会社 Presico Engineering Pte. Ltd. を持分法適用関連会社とした。同社が持つシンガポール設備工事市場における実績・技術力・商圏等との相乗効果を通じて、今後の事業拡大を図る。